

生きた惑星、地球

5.0

明:

地球は人のために特に されており、地球と宇宙で られる 密なバランスは、神の存在を 明しています。
。ただし、それを理解できるのは、真に熟 する人々だけなのです。

目: [事イスラ ムの真 性を示す数々の ~~神~~存在](#)

より: A.O.

日 4 Sep 2012

集日 24 Sep 2012



地球は、 密なシステムがひっきりになしに、完璧な形で されている生きた惑星です。他の惑星と比べてみると、地球が全ての面において、人のために特に作られた惑星だということは明らかです。密なバランスによって、大 中から地下まで、地球上のあらゆる所に生命が存在しているのです。

何百万という 密なバランスのいくつかを てみるだけでも十分、私たちの住む地球が私たちのために特に作られたものであることは分かります。

この惑星で最も重要なバランスの一つが、私たちの周りにある空です。地球の空には、人や地球上に住む他の生命の生存に最も切なガスが、最も切な割合で含まれています。

77%の窒素、21%の酸素と1%の二酸化炭素、そして空中に存在する他のガスが、人の生存に理想的な数で存在しています。生物に必要なガス酸素は、食物を燃し、体内でエネルギーにえます。

もし酸素の量が21%よりも多かったなら、私たちの胞は大きなダメージをい、生命に必要な植物と水素もれてしまいます。もし酸素量がそれよりも少なかったら、私たちの呼吸が困になりますし、私たちが食べる食物もエネルギーにわりません。つまり空中に含まれる21%の酸素は、生命にとって最も理想的な量なのです。

酸素だけではなく、窒素や二酸化炭素も生命の生存に最も理想的な量で存在します。窒素の量は体には有害ではない量でありながら、酸素の燃作用を助けるには十分という妙なバランスです。これは、地球のエネルギー供に必要な光合成にも最も切な量です。さらには二酸化炭素の量は、地上の温を一定化させるのに最も切であり、特に夜の急激な温下降を防ぎます。空中に1%含まれるこのガスは、地上の温が宇宙に逃げてしまわないように、け布のように大を覆う役割を担っています。もし二酸化炭素がこの量を上回れば、地球上の温が急激に上昇し、生命に大きな危を与えます。

この割合は、完璧なシステムによって持されています。地球上にある植物が二酸化炭素を酸素に替え、日1900トンもの酸素を作り出しています。他のガスも相互に合ったシステムにより、地球上に存在し合っています。それゆえに生命が持されているのです。

生命に必要な理想的ガス混合の率だけでなく、この割合を保存するメカニズムも、それと共に作られています。このバランスが一瞬でも崩れたり、わったりすると、生命は完全に崩します。しかしそのようなことは起こりません。この空中のガスの成と人に切な量、そしてこの割合の保存から、画的な造がとれます。

同 に、地球のサイズも空 を保存するのにちょうどいいサイズです。地球の重量が今よりも小さかったら、重力は十分でなく、大 は宇宙に 散ってしまうでしょう。もし重量が今よりも大きかったなら、重量が大きすぎて全てのガスを吸 してしまうでしょう。私たちが今、生命について できるような状 を保つ空 の存在には、 に多くの条件が っていなければいけないのです。

空 中のこのような かい割合とバランスは、クルア ンに述べられています。

“????????????????????”??????557???

ほとんどの人がこの かなバランス、空 中のガスの 成、太 から地球までの距 や惑星の きについて考えることなく生きています。彼らは、これらの 象が彼らにとっていかに重要か、 知なのです。しかし、これらの 成が少しでも崩れると、人 の生存に大きな を与えることになります。

生命の存 のために 立された、他のバランスもあります。

例えば表面重力が 在の数 よりも大きくなれば、空 中にはアンモニアとメタンガスがあふれ、生命は死に えてしまいます。もしこれよりも小さくなれば、空 中から水分が り、生命は死んでしまいます。

地 の厚さもまた、地球の 密なバランスの一つです。もし地 が今よりも厚かったら、あまりにも多くの酸素が空 中から地 に移 してしまい、生命に危 をもたらします。

また今よりも地 が薄ければ、火山活 や地 が起こりすぎて、生命が生きることはできません。

空 中のオゾンレベルもまた、人 にとって大事なバランスの一つです。オゾンが今よりも多かったら、地上の 温は低くなりすぎますし、もし今より少なかったら、地上の 温は高くなりすぎ、また紫外 放射も多くなりすぎてしまいます。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/48>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。